

第4話 : 相談員さんに見守られて...

内 容	音楽など
<p>男性「あのさあ・・・</p> <p>この前、職場検診があっただろ？</p> <p>俺、肺に影があるから</p> <p>要精密検査だって。</p> <p>肺がんかもしれないから、病院を探さなきゃ」</p> <p>妻「さっき読んでた週刊誌に、</p> <p>『がん診療連携拠点病院』というのがのっていたけど、</p> <p>検査を受けるなら、こういうところがいいのかしら」</p> <p>「拠点病院」とは、厚生労働省が認めた、</p> <p>質の高いがん医療を受けられる病院のことらしい。</p> <p>調べてみると、うちから車で15分の県立病院が</p> <p>拠点病院であることがわかった。</p> <p>翌朝、さっそく県立病院に電話してみた。</p>	

男性「あの一、がんの精密検査が必要と言われて、

相談したいんですが・・・」

受付「それでは、がん相談支援センターにおつなぎします」

相談員「はい、がん相談支援センター。相談員の内山です」

男性「そちらの病院は初めてなんですけど」

相談員「当院を受診していなくても、

がんに関するご相談に応じています。

どんなご相談でしょうか」

男性「職場の健康診断で肺の精密検査が必要と言われてまして。

初めてなので、どうすればいいのかと思って」

相談員「紹介状、正式には診療情報提供書、って

いうんですけど、

それと保険証をお持ちになって、

呼吸器内科を受診してください。

こちらにお越しになる場合は、

ぜひ、がん相談支援センターにお立ち寄りください」

私はこの県立病院で精密検査を受けることにした。

結果は、初期の肺がんだった。

検査結果を聞いたその足で、

私はがん相談支援センターを訪ねた。

応対してくれた相談員の胸に「内山」という名札があった。

男性「結局、肺がんとわかって、

手術を受けることになりました」

内山さんは、「肺がん」という冊子と、

「手術前後のリハビリテーション」というタイトルの、

薄い冊子を手渡してくれた。

手術は無事に終わった。

翌々日、廊下で看護師さんと歩行練習をしていると、

相談員「頑張っておられますね」

見ると、相談員の内山さんがニコニコしている。

男性「いただいた冊子に、合併症予防には

歩行訓練が大切だと書いてありましたからね。」

相談員「退院の時にはまた来てくださいね」

内山さんの笑顔が、私の心を明るく照らしてくれた。

私は再び、歩行練習に戻った。